

## 博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	リーディング理工学博士プログラム	申請大学名	早稲田大学
申請大学長名	鎌田 薫		
プログラム責任者	橋本 周司		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本プログラムの実施基盤となる新専攻（先進理工学専攻）の設置準備を進め、すでに1期生、2期生を受け入れてカリキュラムの実施を順次始めている。教員、学生の熱意ある取組がみられ、大学の本プログラムにかける意気込みが感じられる。コアとなる教員の積極的な参画も見取れるなど今後の発展が期待できる。</li> <li>・プログラム委員会からの留意事項が反映された計画に修正され、それを実行するための体制整備が着実に進められ、プログラムが順調に立ち上がっている。</li> <li>・元気で意欲の高い学生が多く、1期生、2期生として自分たちが本プログラムの価値を創造していくという気概が感じられ、印象的である。</li> <li>・個別テーマを経験させているが、俯瞰的な能力を付けるためのシステムが弱い。</li> <li>・自己評価ポートフォリオを学生の成長の相互確認ツールとして活用する試みは評価できる。</li> <li>・エネルギー関連施設訪問等の視察・体験学習は、参加した学生に多くの気づきを与えており、見識を広げる上で有効に機能しているようである。</li> <li>・リーディングプログラムを受講する学生のための専用スペースは、学生たちが集まって議論し合う場として成功している。</li> <li>・単なる研究者ではなく、産業界での活躍に興味を持っている学生もおり、本プログラムの趣旨が学生に理解浸透してきているように見受けられた。</li> <li>・グローバルレベルのエネルギー課題の解決において、イニシアティブの取れるリーダー人材が輩出されるよう期待したい。</li> <li>・学生の修了後のキャリアパスが、教員にも学生自身にも具体的かつ明確には意識されていない。</li> <li>・実践的な英語を強化する環境が不十分な印象がある。</li> </ul> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムが理学系中心となっているが、世界のエネルギー問題解決のためには、プログラムに一層の幅を持たせ、充実させる必要がある。</li> <li>・特色ある博士一貫コースを経てグローバルリーダーとして将来各方面で活躍する人材を育成するという期待に照らして、学生により強い、具体的な目的意識を涵養する必要がある。修了後のキャリアパスを考える機会を与えられているが、業種（例えばIEAなど国際機関、行政でのエキスパート、産業界における研究開発マネージャー、エネルギー資源トレーダーなど）、あるいは資格などについてより具体的な目標を持たせ、目的にかなったカリキュラムを組ませ、勉学・実習・経験を積ませることが望まれる。修了後のグローバル競争に勝ち抜く力は何か、自らの売りは何かを日頃から考えさせることが必要であろう。なお、これらの点に関して、学生個々人の情報源が指導教員、研究室仲間だけでは、考えるヒントは生まれにくい。さらに工夫が必要である。</li> </ul>			

- 学生の主体性を尊重しリーダーシップを発揮させる機会を増やすことは、リーダー人材の育成に欠かせない。学生からの要望や自主企画提案等に真摯に向き合い、それを日常の指導やカリキュラムの見直しに反映できるような柔軟な姿勢・対応が望まれる。
- 1期生、2期生とも入学者は学内の学生である。相当数の外国人留学生を含む学生の多様化への配慮が望まれる。今後、新専攻として一般入試を予定しているが、世界中から優秀な学生を獲得するための具体的方策について検討されることが望まれる。
- 学生の英語環境が乏しい。日々英語の環境にさらされる時間が少ない。担当教員として、英語を母国語とする外国人を招聘することが望まれる。ポートフォリオの英語化、外国語放送のTVニュースの視聴、長期の海外滞在など、種々の工夫を進めてはどうか。民間の英会話学校の協力を得て、キャンパスに格安の英語クラスを開講する方法などもある。
- 語学教育、海外での武者修行体験の充実に加え、選抜する学生自体や学生を取り巻く学内環境をよりダイバーシティに富んだものにすることが望まれる。また、ディベート能力を高めるシステムを明示的に組み込む必要がある。
- 長期渡航先として、大学だけでなく、国際機関、公的研究所、シンクタンクなども視野に入れてはどうか。
- インターンシップにおいては、先進国と途上国の、エネルギー需要、供給の事情が異なる国へ派遣して現場を見させ、世界のエネルギー事情を俯瞰的に把握させる必要があるのではないか。
- 自己評価ポートフォリオのみならず日常的な学生-指導教員間のコミュニケーションを通じて、「グローバルリーダー」として、そして「人」としての学生の成長をきめ細かくフォローアップしていく取組を充実させることが必要である。
- 本プログラムで学ぶ科目が多岐に渡るため、学生がカリキュラムを俯瞰的に捉え科目間の連動性を理解しながら履修できるよう、指導教員間で意思統一された運営方針・指導内容が確実に学生に浸透するよう一層のコミュニケーションが望まれる。
- **Qualifying Examination** の前に取得する俯瞰科目が4単位では少なすぎないかと懸念され、スーパーテクノロジーオフィサーコースとジャーナリズムコースを、より有機的に組み合わせることで体験させてトレーニングを図る工夫が望まれる。